

## 第1節 都市づくりへの市民参加の推進

### 1 市民参加の考え方

#### 〔市民参加〕

将来都市像として掲げた「自然豊かで快適な暮らしを発信する県央都市 あいら」は、単に機能的に充足したまちや美観が優れているまちを言うのではなく、そこに生活する一人一人が「始良市」に誇りを持ち、生き活きと暮らせるまちでなければなりません。

そのようなまちをつくるためには、市民一人一人がまちづくりの主役としての意識を持ち、計画の初期の段階からまちづくりに参加し、市民と行政、そして専門家等と協働して実現していくことが求められています。

#### 〔情報の共有化〕

市民参加を支える大きな柱は、まちづくりに関する情報です。市役所や企業、あるいは市民団体等が有しているまち及びまちづくりに関する情報を、広くそして分かりやすく市民に公開し、まちづくりの情報を共有していくことが必要です。さらには、いわゆる都市計画に関するだけでなく、「始良市」に関する最新情報を、多様に知ることができる情報システムを確立し、意識を高めていくことが必要です。

#### 〔体制と仕組みづくり〕

誰もがまちづくりに参加しやすくするためには、市民参加システムの整備と参加機会の設定、まちづくり活動への支援、NPOの育成等とおして、市民の参加を支援していく体制を整える必要があります。また、まちづくりは、その時々道路や建物を造り、木を植え、環境を整備するだけでなく、それらを有効に活用し、適切に維持・管理するという継続した取り組みです。そのため、都市計画マスタープランに基づく様々な計画や事業が、どのように進捗しているか常に検証し、成果や問題点を考察する評価・点検システムを整えていく必要があります。

## 2 市民参加の推進

### (1) 情報の共有化と人づくり

#### ① 情報の公開体制の充実

- ・ まちづくりに関する情報の総合的な窓口を設置する等、分かりやすく親しみやすい組織体制や情報提供システムを整え、市民の求める情報提供に努めます。
- ・ まちづくりに関する政策立案過程を市民が知ることができるよう広報広聴活動を充実します。

#### ② まちづくりに取り組む市民の意識づくり

- ・ 小中学生を対象としたまちづくり学習や、まちづくりイベント等により、まちづくりへの市民参加意識を高めます。

### (2) 市民の参加システムの拡充

#### ① 市民活動への支援

- ・ 誰もがまちづくりに参加しやすくするため、市民の自主的活動への支援制度の拡充を図ります。
- ・ 様々な分野の専門知識を有する人や地域のリーダーとなってまちづくりを進めていく人材の把握と、必要な情報の提供や勉強会等を行ってリーダーとなる人材の育成に努めます。

#### ② 参加形態・機会の多様化

- ・ 多様な市民参加の取り組みのあり方を検討し、その実現に努めます。
- ・ 身近な地域におけるまちづくりのルールである地区計画や建築協定等の市民参加の計画、制度を積極的に活用するとともに、計画段階における多様な市民参加の制度、体制を確立します。
- ・ 公園等の身近な施設について、利用者による施設管理の制度を充実、拡大します。

### (3) 協働体制の強化

- ・ 市民の主体的なまちづくり組織の設立を奨励し、その活動を支援、助成する体制を整えるとともに、これらの組織と連携、協働してまちづくりを進める意識の定着と協働体制の確立に努めます。
- ・ 行政の組織体制を柔軟なものとし、多様な市民のニーズに対応していきます。更に、まちづくりに熱意と知識を持ち、広い視野からまちづくりを立案し、支援していくことのできる職員の育成に努めます。

## 第2節 都市づくりを先導する重点的な取り組み

将来都市像を実現するため、次のような施策に重点的に取り組み、都市づくりを先導していきます。

### 1 誰もが安心、快適に暮らせる都市を育成するために

誰もが安心、快適に暮らすことができるよう、J R 鉄道駅周辺部都市生活拠点の育成、中山間集落部の活性化、良好な住宅市街地環境の育成に取り組んでいきます。

#### (1) 鉄道駅周辺部都市生活拠点の育成

- ・ J R 帖佐駅や J R 始良駅等の J R 各駅を中心とする都市生活拠点を、市民の生活の利便性を高めるため、拠点機能の強化と基盤施設の整備を推進します。

#### (2) 中山間集落部の活性化

- ・ 始良北部地区、加治木北部地区、蒲生北西部地区の中山間集落部の活性化を図るため、集落生活拠点の機能強化、市民交流基盤の整備（中部地域横断道路、市民農園等）、若者定住促進住宅の建設を推進します。

#### (3) 良好な住宅市街地環境の育成

- ・ 生活環境の快適性を高めるため、緑化やまち並みの調和に配慮した景観形成を促進します。
- ・ 街区公園等の公園を地域住民が身近なスペースとして活用していけるよう、住民と行政のパートナーシップで維持・管理に取り組めます。
- ・ 基盤水準の低い住宅地において、面的な基盤整備の可能性を検討し、その実現に努めます。



## 2 活力を育み、発展する都市を育成するために

都市の活力を高めるため、幹線道路や産業基盤の整備や中心市街地の活性化、観光交流の促進に取り組んでいきます。

### (1) 交流や産業活動を支える広域幹線道路の整備

広域的な活動を支える幹線道路の整備を促進し、交流や産業活動を支えます。

- ・ 九州縦貫自動車道桜島サービスエリアへのスマートインターチェンジの整備促進
- ・ 国道10号及び国道10号加治木バイパスの4車線化の整備促進
- ・ 主要地方道伊集院蒲生溝辺線（蒲生バイパス）の整備促進

### (2) 産業基盤の整備と適切な機能の誘導

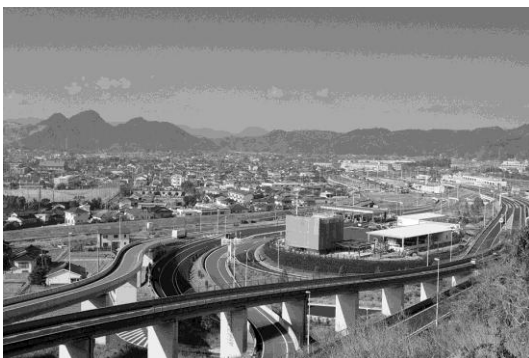
- ・ 複合機能誘導地として位置づけた加治木地域の港町及び工業・物流業務地として位置づけた須崎公共用地について、交通アクセスの改善、機能誘導のための適切な土地利用制限、民間企業誘致活動等を行い、産業活動を活発化します。

### (3) 中心市街地の活性化

- ・ 下深田の土地開発公社の定期借地用地及びその周辺において、魅力ある商業施設の立地を誘導します。
- ・ 既存商店街の再活性化を促進し、商業活動を活発化させるとともに、定住人口の増加を図ります。

### (4) 観光ルートの整備

- ・ 本市の恵まれた自然や歴史・文化資源を歩いて巡る観光ルートを開発し、楽しく歩ける環境整備等を図り、観光交流を促進します。



### 3 歴史文化・自然環境を大切にし、活かす都市を育成するために

身近にある歴史文化・自然環境をこれからも大切にし、活かしていくことで、市民のふるさと意識を高めていきます。

#### (1) 歴史文化・自然環境の公園的活用

- ・ 自然を活かしたレジャーやスポーツを楽しめる環境を整えます。
- ・ 眺望を楽しめたり、水辺や森林に親しめたりする公園や緑地は、その特色を活かすよう環境の整備を図ります。
- ・ 歴史的文化資源及びその周辺において、公園的スペースを確保し、これらに親しめる環境を整えます。

#### (2) 環境学習の推進

- ・ 身近にある豊かな自然を守り、環境問題に自ら取り組んでいく意識を高めるため、水と緑の保全や育成に市民参加で取り組み、体験を通じた環境学習を進めます。



## 第3節 都市計画マスタープランの推進

「始良市都市計画マスタープラン」は、本市のまちづくりを進めていく上で目標となるものであり、都市計画道路の配置や用途地域の指定等の都市計画を立案・決定するための指針となるものです。

今後は、この都市計画マスタープランを基本として、次のような取り組みにより市民と行政が一体となって都市づくりを進めていきます。

### 1 具体的な計画づくりと都市計画の決定

都市計画マスタープランで示されている内容は基本方針であり、個別の基本計画や具体的な都市計画決定に対応した計画ではありません。

そのため、プラン実現のためには本方針を基本として、具体的な計画づくりを行うとともに、個々の計画や事業の熟度等を考慮し、市民の理解と協力を得ながら、適切な時期に都市計画として決定していきます。

### 2 独自のルールや制度の制定

目標としているまちは、道路等の都市計画決定と都市計画事業の実施のみでは実現することはできません。良好な景観の育成、緑の保全・育成、良好な住宅地環境の保全・育成等を実現するため、条例による市独自のまちづくりへの取り組みや、地区計画を含めた市民や地権者の参加を基本としたルールづくりを進めていきます。

### 3 効率的な事業実施

都市計画マスタープランは、概ね20年先の目標像を描いたものであり、その実現のためには効率的に事業を実施していく必要があります。

そのため、長期的・段階的な取り組みや周辺市町との連携の視点にたつて、効率的な整備プログラムを策定し、それに沿って整備を進めていきます。

### 4 都市計画マスタープランの進行管理と適切な見直し

都市計画マスタープランは長期的な計画であるため、その着実な実現のために進行管理を的確に行うとともに、我が国の社会経済の動向、本市に関連する広域的な都市整備の動向やプランの実現の段階に応じて、市民参加の基に適切な見直しを行っていきます。

### 5 まちづくり制度・事業の活用

まちづくりの目標やまちづくりの方針を実現するため、都市計画の手法やまちづくりの方策を総合的に適用して、市民の参加と協力を得ながら具体のまちづくりを推進していきます。